

# デイケア勤務になって自己の職務満足を考える

～職務満足度向上につながったこととは～

札幌太田病院 第2 デイケア

木下 智香子<sup>1)</sup>

1) 看護師

## 1. はじめに

医療はサービス業であり、医療サービスに関する期待度が大きい中で様々な取り組みを行っているが、患者様・利用者の満足度向上には職員の職務満足向上が欠かせない。

今回、第2 デイケアへ勤務異動となり、新たな目標とやりがいを見出すことができた。入職から現在までを振り返り、自分にとっての職務満足とはどのようなものかを報告する。

## 2. 急性期治療病棟での学び

初めて精神科に勤務し、3ヶ月間勤務した。病棟長始めスタッフの方々の指導をうけ、入院形態・治療プログラム・各疾患の援助過程など学んだ。デイケアで勤務できるのは、ここでの学びのおかげと感謝している。

## 3. デイケア勤務の魅力と学びについて

(1)メンバーに、身構えることなく関われ、愛おしさを感じている。入院経験ある方の、真摯に仕事している姿にも強く感銘を受けた。メンバーの平均年齢に近いこともあり、その人生から学ぶとともに、自分も人生経験・看護師経験を惜しみなくメンバーに活かしたいと強く感じた。

(2)デイケア勤務に馴染みやすかった。時折グループホームの実情を見ていた関係からデイケアに同じ通じる面を感じ、自然に馴染むことができた。いろんなプログラムも、メンバーの方と一緒に楽しめ、体力と気力について

いけると感じた。

(3)チームとしての魅力を感じた。札幌太田病院への入職理由に、他職種と協力し勤務したい強い希望があった。以前の職場の影響で、介護関係の学習を続けた経験から地域連携室やPSW・訪問看護ステーション等の活動が良く見えるようになった。デイケアでは、自分もチームの一員として、役割が重なりながらも、各自の役割を果たすことで総合的な成果が出ると感じ、やりがいと魅力を感じた。

(4)各耕仁会論文集を拝読する機会に恵まれ、職員としての自覚が強まった。長年にわたる耕仁会研究論文集から、札幌太田病院の歴史や取り組みを知り大きな学びに結びついた。更に、酒井佳子の文献<sup>3)</sup>から、当院治療マニユアルの十段階心理療法の製本になる過程・断酒会発足の歴史・様々な援助活動が理解できた。看護師としての役割を感じ、過去の経験を生かして教育講座で生活習慣病の勉強会や、役に立つ情報の提供など行うことで、自分の領域を広げることができたと感じた。

(5)メンバーとの関わり

メンバー：S氏、60代前半、男性

診断名：アルコール依存症

家族構成：1人暮らし・キーパーソン姉・妹  
経過：

長い飲酒歴があり、数年前から暴言と幻聴や希死念慮が出現して一回目の入院となった。夜間譫妄が消失せず保護室に入室したが、転室後は、作業プログラム・学習会等に積極的に

参加する。時に自己抑制できない面があったがデイケア通所後、トラブルはない。

援助目標：

断酒することで姉妹との信頼関係を回復し、健康的に日常生活を送る。

関わりの実践：

入院中は、アルコール症治療期の第2期。積極的にプログラムに参加して、明るい印象があった。関りのポイントは3点とした。

早く馴染めるような、信頼関係作りを重視積極的なプログラムへの参加促しや、一緒にプログラムに参加した。初めてのソフトボール参加は、早期に他メンバーに存在感と人間関係が形成される結果となった。

継続断酒・断酒会参加に対しては、励ましの声かけなど行い、関りを多くした。

入院中の状態を知っていたことで、通所開始時は心配したが、「始めはどうなるか不安だったが、知っている人がいて本当に良かった」という言葉が本人から聞かれ、コミュニケーションはスムーズであった。

早期にボランティアすることが決定し、誇らしげにエプロン姿を披露する場面も微笑ましかった。「いつもオシャレだね、カッコ良いといわれているさ」の言葉に自信が溢れ、表情に活気が見られた。現在、洋服とエプロンのコーディネートを楽しみ、規則正しい生活と、夜は断酒会参加と張りのある生活をしている。会話も弾み、パークゴルフは「お互い練習しよう」と声かけしあい、『パークゴルフの道具を姉から貰った』の発言もあり、姉妹間の信頼が回復していることが伺われて安心できた。

S氏が若い頃の知り合いと第2デイケアで再会して談笑する場面が見られ、入院中に仲が良かった患者の外来受診時は一緒に面会し、1人はボランティア、1人は家庭を修復できたことを近況報告しあい喜びを分かちあった。

デイケアには包容力あるスタッフが多く、

その関わりがS氏に大きく貢献しており、信頼感が更に強まったといえる。

S氏が、今後も人生を心豊かに力強く生きていくために、自立支援と意思決定を尊重し、医療者側の押し付けにならないような関わりを意識した。結果は、生き生きと変化が見られ、筆者のデイケアでの職務満足に繋がったと感じ、感謝を込めて紹介した。

#### 4. 考察

職務満足度の調査から、良好な援助関係を持っている人は、仕事への満足・充実感を持ち、周囲から期待、支援されるという結果がある。川崎久子らの、看護婦の仕事意欲に関する研究<sup>1)</sup>によると、『職場でやりがいを感じる時』を経験年数別に示すと、患者からの評価と関わりを示すカテゴリーが最も高く、次に仕事の達成感、順調な仕事の仕上がり、能力発揮、役割遂行という結果がある。

若い頃から多くの患者や家族対応をしてきた経験から、著者は、できる限り看護師として働きたい気持ちが強い。精神科選択は遅くなったが、この年齢だからこそ習得できた経験を活かせる事や、自分も色々な悩みも体験し、共に学びたいと考えて精神科を希望した。

コミュニケーションについては、「職場でやる気をなくするとき」の結果<sup>1)</sup>から、対人関係・相互理解・チームワークなどが挙げられる。チームで仕事を進めるには、スタッフ間のコミュニケーションが取れていることは、大切な職務満足の要素といえる。デイケアには、魅力的スタッフや他職種が近くにいることも、大変魅力であった。

やりがい調査は、努力の承認行為が、経験年数が長い程大きな割合を示した。承認行為が大きな効果をもたらすことは、過去の体験で実感していたので、引き立ててくれた原田副院長と小田島病棟師長に心より感謝する。

又、専門職としての自立が職務満足を高めるといわれている。数年前からキャリアアン

カーについて考え、看護管理ファーストレベル研修に参加した。意見発表・グループワーク・レポート書きは、苦手意識があり、弱気になった苦しい研修であった。しかし、当時の北海道看護協会会長など、多くの素晴らしい講師陣との出会いや仲間との5週間の貴重な体験・学びは自分にとって大きな糧になり、物事的前提を意識するようになった。苦手意識には自分への処方箋を発行し努力した。アドバイスをうけ、自分の意識しない強みの部分もなるべく表現し、学んだことを実践するように心掛けた。一番の収穫は、チャンス・チェンジ・チャレンジが自己モットーになったことといえる。

今回のデイケア勤務も、年齢だからと諦めない自己モットーが物事の判断の礎となり、職務満足に繋がったと自覚した。

チャンスとは：

何をチャンスと感じるかは、個人の価値観・求めていることによって異なる。又、考え方によってはチャンスに結びつく。今回のデイケア勤務は、著者の仕事の幅を広げるチャンスになったと感じている。

チェンジとは：

自分を変えることは難しく、更に年齢が高いと考えが固くなるといわれる。目的をもつことで、思いきり、切り替ができる。切り替えは大切という2点を再発見できた。

チャレンジとは：

仕事上、必要と感じたことは多少無理があっても挑戦するバイタリティがあり、自分の強みの部分と感じている。

キャリアアンカーの道とは：

最終的には、年齢の許す限り看護師として働きたい強い思いがある。

## 5. 結論

高嶋妙子氏は「患者満足之源は職員の職務満足である」と述べている<sup>2)</sup>。高い職務満足度は、より良い看護サービスを提供するために重要で、職務満足と業務遂行の間には、相互の関連があるとされる。マクレランドも「達成動機は誰でも持っているがその喚起の仕方が重要だ」と述べている<sup>4)</sup>。職員1人ひとりのニーズに応えることは難しいが、職員がやりがいをもって働くことは、サービス提供と、看護職員の定着率に結びつく。

職務満足は、個人の生き方 仕事に対するキャリアアンカーの考えなどが大きく影響し、個人の考えは人生経験・人との出会い・学習経験・ライフスタイル等でも培われる。

個人評価であるが、職務満足度が高い結果になったこととして、メンバーとの良い関わりができた デイケア勤務に魅力を感じた 看護師としての役割意識が強まった 自己向上目指し、いろんな目標設定ができたことなどが挙げられる。

## 6. おわりに

第2デイケアメンバーは様々な職歴を持ち、人間味溢れる方が多く、まだまだ活躍が期待できると感じている。現在、高齢アルコール依存症についても、在宅ケアなど通して問題が表面化している。

今後、札幌太田病院の一職員として、看護師・ケアマネージャーの資格を活かし、メンバーの方々の健康維持と向上に貢献したいと考えまとめとする。

## 文 献

- 1) 川崎久子：看護師の仕事意欲に関する研究．看護 1月号，日本看護協会，東京，pp166～167，2003
- 2) 生野繁子：看護職の免許種別及び病棟別職務満足感．第32回日本看護論文集-看

護管理- , 日本看護協会 , 東京 , pp333 ~ 335 , 2001

- 3 ) 酒井佳子 : アルコール症者を取りまく現状について . 医療法人耕仁会 学術研究論文集 2002 , 札幌太田病院 , 札幌 , pp280 ~ 286 , 2002
- 4 ) 大川 操 : 看護職員の職務満足と看護観との関連 . 第 32 回日本看護論文集-看護管理- , 日本看護協会 , 東京 , pp85 ~ 87 , 2001